

平成 29 年度 事業報告

生活介護事業・就労継続支援 B 型事業（ポップコーン）

1 はじめに

両事業とも個別支援計画に基づき支援を行った。

「生活介護」新たに 1 名の仲間が加わった。早くポップコーンのリズムに慣れ、生産活動（作業）、療育活動、職員とのかかわりを通し本来の力が発揮できるように努めた。年度当初は仲間 25 名でスタートし 7 月から 1 名（強度行動障害：昨年度から父親の体調、職員配置が整わない理由で入院していた）増え 26 名になった。

生産活動は、自主製品製造販売、リサイクル活動（アルミ缶、ペットボトル）、下請け作業を行った。又様々な工程（ラベルはがし、渡す事、袋入れ、型抜き）を細分化して取り組んだ。そして自主製品の販売に行ったり、リサイクル回収を行う中で「自分の仕事と役割」と思う仲間が増えていった。

療育活動は、散歩、リトミック、絵、工作、野菜作り、買い物、調理実習などを行った。又自分の思いを言葉で話せる仲間同士の集まりを週 1 回行い、今年度も様々な企画（ボッチャ協会の縁でテレビ取材、ふれあい祭り出店、選挙期日前投票）を行った。これがしたい、して欲しいという主体的な気持ちを表現する力がでてきた。そして仲間同士の関わりもより多く見られるようになり、ほほえましい姿を度々目にする事ができる。自閉的傾向の強い仲間達の気持ちを汲み取る事はまだ難しく、不安定になると物にあたったり、自傷行為になったりするが、その都度保護者と連絡を密に取りながら、安心できる場所、対人関係、環境の構築を再度心がけ取り組んだ。

「就労継続支援 B 型」作業は、下請け作業を中心に行いながらも、パウンドケーキの製造販売を月 1 回行った。下請け作業の手順、工程（冊子組み、袋入れ、宛名貼り）が同じ内容な為、職員が仕事を割り振るのではなく、仲間同士で話し合いながら進めていった。給料日企画は、仲間同士話し合いをしながら行先、内容等を考え定期的に買い物、喫茶店等へ出かけた。

10 月から 1 名の仲間については、体調、精神面が不安定になり以降欠席している状態である。

地域との関わりについては、毎月町内へのアルミ缶リサイクル回収を実施した。ポップコーンふれあい祭りを開催し多くの方に理解していただく機会となった。また、寿楽苑の夏祭り、文化祭にも参加し交流を深めた。そして、毎年行っているサンビレッジ国際医療福祉専門学校との交流も行った。

2 各事業の取り組み

生活介護事業

重度・重複障害者を中心に生産活動や生活を通して発達を支援し、地域社会の中で生きがいを感じていけるよう個々の障害に合わせた創作的活動を行った。

- (1) 身体等の介護
- (2) 入浴（週 2 回）
- (3) 生産活動
 - ・オープン陶土工芸の雑貨製品、販売
 - ・アルミ缶、ペットボトルリサイクル
 - ・画鋸・クリップ等の製品、販売
 - ・下請け作業
 - ・ビーズ製品制作、販売
 - ・物品販売
- (4) 創作的活動
 - ・調理実習
 - ・リトミック、音楽活動
 - ・工作等創作活動
 - ・野菜作り
- (5) 外出
 - ・散歩、外食、公共施設（図書館、プール）
 - ・季節を感じる外出
- (6) 送迎

就労継続支援B型事業

自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、生産活動その他機会を通して、その知識及び能力の向上のために支援を行った。

身体的に重度な方には、休憩、ストレッチをとることを進めるなど体調面を留意して行った。又外出活動を取り入れることで生活にメリハリができ、それが仲間達の活力に繋がった。

- (1) 生産活動
 - ・下請け作業（1ヶ所の会社）
 - ・ケーキ製造・販売（月1回）
 - ・物品販売
- (2) 外出（散歩・買い物、喫茶店）
- (3) 送迎
- (4) 工賃

3 平成29年度 年間延べ利用者数及び開所日数

生活介護事業（定員28名 平成30年3月31日 現在26名）

- (1) 開所日数 242日
- (2) 年間延べ利用者数 5846人（平均実利用者：24.2人）

就労継続支援B型事業（定員10名 平成30年3月31日 現在3名）

- (1) 開所日数 242日
- (2) 年間延べ利用者数 505人（1日平均利用人数 2.1人）
- (3) 年間利用日数 200日以下人数 2名（欠席理由：他サービス利用）

4 主な行事

<ポップコーン>

- | | | |
|-----|-----------------|---------------------|
| 5月 | いぶきまつり | |
| | 岐阜県障害福祉事業所連絡会総会 | |
| 6月 | F C岐阜サッカー観戦 | サンビレッジ国際医療福祉専門学校交流会 |
| 8月 | 寿楽苑夏祭り | |
| 9月 | 愛護ふれあいバス事業 | サンビレッジ国際医療福祉専門学校交流会 |
| 10月 | 交流運動会 | F C岐阜サッカー観戦 |
| 11月 | 寿楽苑文化祭 | ふれあいまつり |
| 12月 | クリスマス会 | |
| 1月 | 新年会 新成人を祝う会 | |

平成 29 年度事業報告

共同生活援助事業所（グループホーム）

ふぁみりいポップ

利用者 5名

開所日 月、火、木、金の夕方から翌朝

※祝日はお休み

※ポップコーンの開所日に合わせて変更有

全体を通して大切にしたこと

- ・利用者が生活の主人公だと感じられることを大切にしました。利用者の意思や感じ方を重視して共に暮らしをつくりました。
- ・室内を自宅のようにアットホームな空間になるように努力しました。リビングには花を飾り、職員が使う事務用品はなるべく仲間の目に触れない場所に置きました。
- ・保護者と密に連絡をとりあいました。
- ・地域の方との交流を図るため、自治会行事に参加しました。

具体的な支援内容

- (1) 共同生活援助計画の作成
- (2) 食事・排泄・入浴等日常生活の介助
 - ・アットホームな時間を提供するとともに、仲間の安全に気を配りました。
 - ・てんかん発作をもっている利用者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。
- (3) 趣味やお楽しみの時間の提供
 - ・ゆったりした時間を楽しめるよう、テレビやDVDやパソコンを用いました。
 - ・他に、仲間に合わせてソフトブロック、絵本、布絵本、ミニカー、カラーボール、情報誌、タブレットなどを活用しました。
 - ・5月の周年イベントのほか、仲間の誕生日祝いと同じ日にその季節の行事をおこないました。
 - ・「ふぁみりいポップ&ほたる」の看板を仲間と職員が力を合わせて3か月間かけて制作しました。
- (4) 日常的な相談や話し相手
 - ・日常が楽しくなるよう、雑談のほか、ご自宅からのお出かけや日中施設での人づきあいにかかわる相談、話し相手になりました。
- (5) 食事の提供
 - ・身体の健康に気をつけた献立にし、時間をかけて調理しました。
 - ・「今日の献立」を仲間が見やすいところに掲示しました。
- (6) 健康管理・金銭管理の手助け
 - ・四季の気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
 - ・必要に応じて、内科や皮膚科、歯科受診に同行しました。

・服薬、与薬管理を徹底しました。

(7) 夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助

(8) 緊急時の対応

(9) 日中活動の場等との連絡・調整

・仲間の健康状態等にかかわる情報を、紙面やFAXでポップコーンと毎日共有するシステムを作りました。

一日の流れ

夕方	16時	帰所・入浴	翌朝	6時30分	起床
	18時15分	夕食		7時	朝食
	19時	自由		8時	出発準備
	21時30分	消灯		9時30分	出発

年間の記録

平成29年

- 4月2日 自治会 排水路の清掃参加（職員）
- 5月25日 2周年記念イベント
- 5月28日 自治会 ごみゼロ運動参加（職員）
- 6月上旬 西郷ほたるまつり参加
- 7月9日 自治会 板屋川クリーン作戦参加（職員）
- 7月27日 誕生日会
- 8月6日 自治会 排水路の清掃参加（職員）
- 8月下旬 看板制作開始
- 9月14日 誕生日会・お月見
- 10月30日 誕生日会・ハロウィン
- 11月19日 自治会 クリーンシティ運動参加（職員）
- 11月中旬 看板完成
- 12月25日 誕生日会・クリスマス

平成30年

- 2月2日 誕生日会・節分
- 3月2日 ビンゴゲーム大会
- 3月29日 お花見

平成 29 年度事業報告

短期入所事業所（ショートステイ） ほたる

開所日 月、火、木、金の夕方から翌朝

※祝日はお休み

※ポップコーンの開所日に合わせて変更有

利用実績

※利用登録者 23 名（ポップコーン利用者 21 名、その他 2 名。平成 30 年 3 月 31 日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	32	36	31	18	20	25	22	25	26	25	25	29	314
開所日数	24	26	17	15	14	14	14	16	17	15	15	18	205

利用者数は、のべ人数

長期利用の仲間を受け入れました

4月中旬に保護者が身体的理由で介護できなくなった仲間を長期間受け入れました。初期はポップコーンがお休みの日（休日）も職員が交代で介助しました。5月中旬には、地域の短期入所事業所が受け入れを承諾し、「休日」はそちらの事業所に泊まるようになりました。水曜日の日中は仲間が日頃から利用していた日中デイサービスを利用しました。ほたるの開所日はほたるを利用し続けました。7月初旬に保護者が仲間を介護できるまでに回復し、仲間の長期利用が終了しました。

- ・はじめの 40 日間はゴールデンウィークも含めて、ほたるとポップコーンの職員が総力戦で介助をおこないました。保護者の緊急時に仲間を 1 か月以上毎日支援できたことは、短期入所事業者として大きな経験になりました。陰には、ほたる利用を控えていただいた他の多くの利用者や保護者の協力もありました。
- ・「休日」の支援を地域の短期入所事業所に任せられたことは、仲間を地域ぐるみで協力して支援した事例として意味深いと考えます。
- ・ただ、当該の仲間にとってはそこは初めて利用する短期入所事業所でした。慣れない場所で心理的な不安が体調面や身体面に表れるまでになりました。日頃利用していた日中デイサービスは普段通り、穏やかに利用できました。今後、同じような事例で地域の事業所とスムーズに連携できるようになるため、できるだけ多くの利用者に日頃から複数の事業所を利用してそこに慣れておくことを勧めたいと思います。

全体を通して大切にしたこと

- ・安心して過ごしていただけるように、仲間一人ひとりに対する職員の関わり方や生活の流れに注意を払いました。
- ・日ごろから保護者との連絡を密にし、必要なときは話し合いをもちました。

具体的な支援内容

(1) 食事・排泄・入浴等の介助

- ・アットホームな時間を提供するとともに、仲間の安全に気を配りました。
- ・てんかん発作をもっている利用者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。

(2) 趣味やお楽しみの時間の提供

- ・ゆったりした時間を楽しめるよう、テレビやDVDやパソコンを用いました。
- ・他に、仲間に合わせてソフトブロック、絵本、布絵本、ミニカー、カラーボール、情報誌、タブレットなどを活用しました。

(5) 食事の提供

- ・身体の健康に気をつけた献立にし、時間をかけて調理しました。
- ・「今日の献立」を仲間が見やすいところに掲示しました。

(6) 健康管理・金銭管理の手助け

- ・四季の気候に合わせた室温を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。

(7) 夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助

(8) 緊急時の対応

(9) 日中活動の場等との連絡・調整

- ・仲間の健康状態等にかかわる情報を、紙面や FAX でポップコーンと毎日共有するシステムを作りました。

一日の流れ

夕方	16時	帰所・入浴	翌朝	6時30分	起床
	18時15分	夕食		7時	朝食
	19時	自由		8時	出発準備
	21時30分	消灯		9時30分	出発

平成 29 年度事業報告

特定相談支援事業（ステップ）

・活動報告

障害者ご本人やご家族の思いを汲み取り、その人らしく地域生活が送れるサービスを提案しつつ利用計画案を作成している。問題が出てきた時は、思いに寄り添いながら関係機関とも連携を密にとり問題解決にあたりました。

ステップだけでは、とても関わりきれない難しい案件（ポップコーン利用者強度行動障害者で保護者からの虐待もある）は住まい地である池田町がようやく主体的に動いていただけるようになった。しかし強度行動障害者の生活介護、日中一時、短期入所、入所施設、同行援護等の受け入れ事業所がほとんど無い状態に変わりはなく、保護者の要望に合う利用計画案を作成することは不可能な現状です。

・扱い件数

利用計画案作成	40 件
モニタリング報告	60 件
合計	100 件